

放課後子ども教室推進事業

自治体名

岩手県花巻市

震災後の地域の状況・仮設住宅数

- ・内陸部にある本市は、体育館や美術館等における建物被害はあったものの、大きな人的被害はなかった。
- ・沿岸部等市町村の被災者を多数受け入れている。受け入れ状況：242世帯480人(平成27年1月28日現在)

<取組名> ～放課後子ども教室の実施による児童の居場所づくり活動～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	1人	80人	延べ62回	内川目小、亀ヶ森小

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
	○	○	○		()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

<取組の内容を具体的に記載>

本市は震災による直接的な被害は少なかったものの、放課後の児童の安全・安心を確保する必要が一層高まっており、現在は学童クラブが設置されていない内川目小学校及び亀ヶ森小学校の2小学校区に放課後子ども教室を設置し、放課後の児童の居場所を確保することとしている。

地域のボランティアによる本や紙芝居の読み聞かせや学習支援(プラ板製作体験等)、遊びを通じた異学年交流などの活動を展開するとともに、冬休み期間中に合同でスケート教室を実施(1回)し、専門講師の指導のもと、異なる学校の児童との交流を図りながらスケートを体験する活動を行った。

放課後児童の居場所づくりを図るだけでなく、多彩な体験活動等により、学校以外の学びの場を充実させ、「生き抜く力」の育成を図った。



スケート教室



プラ板製作

取組の変遷

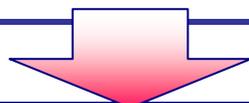
準備段階

◇被災による課題

- ・震災による本市への直接的な被害は、沿岸部に比べて少なかったものの、避難所が開設されるとともに、支援活動が活発となった。また、被災地からの住民異動による新たな地域コミュニティ作りが必要となった。
- ・震災より、地域における人と人とのかかわりの大切さを再認識したことから、学校と地域の教育活動について、世代や組織の枠を超えた連携を一層推進し、恒久的に定着させる必要が生じた。
- ・震災後、放課後の児童の安全・安心を確保する必要がさらに高まった。また、多彩な体験活動等により、学校以外の学びの場の充実により、生きる力をさらにつけさせる必要性が高まった。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・放課後の児童の安全・安心を一層確保するため、学童クラブのない地域に、放課後の子どもの居場所を設置してほしい。
- ・地域の子どもの地域で育てる活動の充実により、地域の活性化を図りたい。
- ・豊かな自然や文化に恵まれた郷土の学習資源を進んで理解する主体性を養いたい。



体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

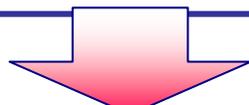
【教育部こども課】 実施主体、申請書類作成

【大迫総合支所市民サービス課】 企画運営、コーディネーター・ボランティア選定、実施日の調整・連絡

【小学校】 児童参加の呼びかけ、児童生徒への指導

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ 地域をあげての事業として児童生徒の参加に学校側が配慮し、実施日の調整・連絡等情報交換を密にした。
- ・ プログラム作成にあたり、こども課・大迫総合支所市民サービス課・小学校が連携し、地域ボランティアの参画を得ながら、児童の興味・関心を引く内容を検討した。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・ 各小学校区の放課後の児童の安全・安心な居場所が確保されるとともに、地域の人材がコーディネーターや教育活動推進員等の役割を担ったことにより、地域との連携・交流が深まり、地域コミュニティの活性化につながった。
- ・ 合同で開催したスケート教室では、異なる小学校の児童と交流を深めることができた。
- ・ 関係機関の連携によりコーディネーターやボランティアの発掘およびプログラム開発を行ったことにより、関係機関の連携が密になり、学習内容の充実が図られた。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

昨年度同時期と比較し、年間の児童の参加数が 40 人増加しており、児童の教育活動への積極的参加が見られ、地域活性化、児童の主体性の育成などに寄与することができた。(平成 27 年1月現在)

◇課題や今後の展望

今後、さらに地域との連携を深めるなどの工夫をしながら、ボランティアの参画人数を増やし、活動内容を充実させ、併せて地域コミュニティの活力を増進させたい。